

ゆざ学講座第2回のご案内

「わたしたちは、縄文時代からサケを食べてきた」

小山崎遺跡からサケの背骨の破片と歯が出土しています。近くを流れる湧水の川、牛渡川は、新潟県の三面川、富山県の庄川と並んで日本海側有数のサケの遡上で知られる川です。近年、新潟や富山を含め日本側の縄文遺跡からサケの歯や骨の出土が報告されるようになりました。

今回は、縄文時代から続いている人とサケの関わりを民俗学の視点も交えてお話しします。

日時 10月14日(土) 10:00~11:30

場所 遊佐町生涯学習センター大会議室

講師 小林 克 氏 前秋田県埋蔵文化財センター所長
三内丸山遺跡発掘調査委員会委員長

演題 「わたしたちは、縄文時代からサケを食べてきた」

問合せ・申込 資料の準備がありますので、10/11(水)まで、教育委員会文化係(72-5892)へお申込みください。



・・・小山崎遺跡の暮らし・・・

季節は、初冬。北西の季節風があたらない丸池様の少し西の斜面に建てられ小山崎遺跡の竪穴住居の様子です。他の遺跡の調査報等も参考にして再現しました。

縄文の竪穴住居は、萱(草) 葺きとわれてきましたが、御所野遺跡(岩手県一戸町)の竪穴住居は、土がかぶせられていました。断熱性が高く、冬暖かく、夏に涼しい住まいであったでしょう。湧水の川、牛渡川にはサケが遡ってきていたはずで、食べていたはずと思いませんか? 捕ったサケを燻すなり、干すなりして保存し、冬に備えたと思います。

